

藍と愛。 ～JAPAN×SUSTAINABLE×PRECIOUS～

TEAM Indigo

創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミ
岡部エミリー, 小松勇人, 斎藤夏美, 繫奏太郎
指導教員 前田幸男

TEAM Indigo は、日本の伝統文化である藍染めを活用し商品を作成する。「藍」というひとつの漢字には多くの素敵な意味が込められている。それは、日本でしか出せない深い藍色 (JAPAN BLUE)、大量生産・大量消費ではなくこれからの時代に求められていく持続可能性(SUSTAINABLE)、そして、その藍染めを大切な人たち(PRECIOUS)に使い続けてもらえる、このような藍染めの商品を八王子からつくっていく。

キーワード：藍染め, JAPAN, SUSTAINABLE, PRECIOUS

1. 諸言

「藍」は JAPAN BLUE と呼ばれるほど、日本の伝統的な青色として世界に名を馳せている。また、「藍」には「落ち着いた和の雰囲気を感じさせるため流行り廃りがなく、継続して名付け」によく使われるということもある。流行り廃りがなく、継続して使われていく意味も含まれているのである。Team Indigo はこの「藍」を用いて、Sustainable に使い続けられるギフトを顧客の大切な人たち向けにつくることを提案する。

2. 日本の伝統色としての「藍」

Team Indigo がなぜ「藍」を選んだのかについて説明する。その理由として3点ある。それは JAPAN (日本) ×SUSTAINABLE (持続可能性) ×PRECIOUS (大切な人) である。一つ目が、上記でも述べたように「藍」は JAPAN BLUE と称されるほど日本の特色であるからである。英語では、indigo と訳される藍であるが、海外では JAPAN BLUE やヒロシゲブルーと言われるほど日本の伝統色として根付いているのである。海外で呼ばれる Indigo はジーンズなどに多く使われるのは「化学」染料である。しかし、JAPAN BLUE

と称される「藍」は日本で古くから行われる草木染め、いわゆる蓼藍のことを指す。そして、奈良時代に中国から渡り、江戸時代へと日本独自の発展を続け、深く鮮やかな青色をみた明治時代の外国人が日本中に溢れる「藍」を目にし、JAPAN BLUE と呼ばれるようになったのである。100年以上の長い年月を経た現代でも世界で賞賛されるほどの日本の藍染めをさらに発展させていくことが地域の発展にもつながることだと考えている。

3. 長く使い続けられる「藍」

また2つ目の「藍」を選定した理由として、SUSTAINABLE を大事にしたいという思いがあったからである。SUSTAINABLE とはすなわち「持続可能性」である。現代において、環境問題が深刻になるなか、これまでの大量生産・大量消費の慣習のままでは、動植物だけでなく、本当の意味で人間が暮らすことができない地球になってしまう。だからこそ、2015年9月に国連で採択された Sustainable Development Goals (SDGs) に掲げられる SUSTAINABLE の要素を取り入れることが重要であると考えます。ここで、単純にこれからの地球環境のために、という意味だけで SUSTAINABLE のコンセプトを入れ

たわけではない。「藍」にも SUSTAINABLE の意味が含まれているのである。「藍」には、継続して使い続けられる、流行り廃りが無いという意味も込められている。藍染めは使えば使うほど、魅力を増していく。そして、その人にしか持つことができない世界にたったひとつのものになる。現代の多くの商品は、つくられた瞬間が最も美しい。一方で、藍染めは使えば使うほど、その人らしさやその藍染めの深みが出るのである。このように、藍染めに愛着を持つことで、ずっと使い続けられる、SUSTAINABLE な藍染めをつくっていきたいと考えている。

4. 大切な人のための「藍」

そして、最後の藍染めを選んだ理由として、Precious（大切な人）のための「藍」でありたいという思いからだ。上記でも述べたように、日本の伝統色（JAPAN）として、長く使い続けられる（SUSTAINABLE）ものとしての藍染めでありたいという思いから、家族や友達、恋人（PRECIOUS）へのギフトとして、ずっと使い続けられる藍染めをつくる。なぜ大切な人にターゲットを絞ったのかについて説明する。「藍」と「愛」の二つの漢字を掛け合わせて考えたこのコンセプトは、藍色のギフトを愛する人に渡す。そして使い続けてもらおうという思いを込めて考えた。Team Indigo のメンバーそれぞれが誰にこれを使ってもらいたいのか、メンバー自身が使いたいのか、それを突き詰めた時、PRECIOUS（大切な人）に使ってほしい、PRECIOUS からもらいたいという言葉が出てきた。やはり、商品をつくるからにはメンバーそれぞれがほしい・使いたいというものをつくることが最も大事だと考えている。だからこそ、ターゲットは誰かと考えた時、Team Indigo は PRECIOUS をコンセプトに入れようと決めた。

5. 結論

TEAM Indigo は、日本文化の伝統である藍染めを活用し、JAPAN × SUSTAINABLE × PRECIOUS をコンセプトとして商品を作成する。上記でも述べたように「藍」には、3つの大きな魅力がある。日本ならではの藍色、長く使い続けられその人にしか出せない藍色、そして大切な人のための藍色。これらの魅力を最大限引き出す製品をつくる。